

(前半 表紙から4ページ)

第25回 奈良ギター合奏団 定期演奏会



第44回奈良県芸術祭参加



2013. 10. 14 (月・祝) 1:30 p.m
ならまちセンター市民ホール

〈ご挨拶〉

代表 木村史郎

本日は、奈良ギター合奏団第25回定期演奏会にご来場下さいまして誠にありがとうございます。団員一同、厚く御礼申し上げます。

早いもので、定期演奏会も25回目となりました。平成元年9月に第1回定期演奏会を開催し、平成と共に歩んで参りました。当合奏団の創設者である三谷健児先生、長年パーカッション・司会・ビデオ撮影を引き受けて頂いています大西收さん、吉田恵実さん、米田哲也さん、更に合奏団の発展に貢献して下さいましたOBの方々に深く感謝致します。

今回は、25回記念イベントも用意しておりますので、最後まで楽しみ頂きますよう、お願い申し上げます。

クラシック指揮 浜口輝夫

クラシックの指揮を担当することになり2年目になります。私自身は、マンドリン出身ですので、指揮をするにあたり、特に、ギターでしか表現できない世界、また奈良ギター合奏団ならではの音色・響きを追いかけていた頃の強い思いがありました。

したがって音色のみならず、技術的には不可能な無茶な要求もしつつ、本日まで練習を重ねてまいりました。そして、その成果は着実に出ていると感じております。

団員の皆様の温かい大人の対応にご協力に、まずは感謝申し上げます。

本日のクラシックステージでは、ギターならではの音色と、フルート、コントラバスとのアンサンブルを楽しんで頂ければ幸いです。

ポピュラー指揮 小田良一

今年初めて指揮棒を振ります。今さらながら、大変な役目を引き受けてしまった感もありますが、みなさんに楽しんでいただける音楽を作ろうと、私なりにこの一年、取り組んできたつもりです。

映画音楽あり、アニメのテーマあり、ラテンあり。はてさて、どんな演奏になることやら……。ちなみに演奏中、合奏団の面々は指揮者を見ていないようですが、ちゃんと見てくれています。いるはず。いると思います。まあ、万一見ていなくても、素晴らしい演奏を奏でてくれるのが、この合奏団ですから……。

【プログラム】

◆ 第一部 ◆

〈クラシック合奏〉

リュートの為の古風な舞曲とアリア 第3組曲

第1楽章	イタリアーナ
第2楽章	宮廷のアリア
第3楽章	シチリアーナ
第4楽章	パッサカリア

◆ 第二部 ◆

〈奈良ギター合奏団25年の歩み(語り)〉

〈ギターアンサンブル 50's〉

ワルツ・ピカピカ
ボクサー
イパネマの娘
浜千鳥
テイク・ファイブ
ホテル・カリフォルニア



〈バロック・アンサンブル〉

4台のチェンバロの為の協奏曲 BWV1065

第1楽章	アレグロ
第2楽章	ラルゴ
第3楽章	アレグロ

◆ 第三部 ◆

〈ポピュラー合奏〉

シボネー
ロミオとジュリエット
宇宙戦艦ヤマト
帰らざる夜明け
トランペット吹きの日
エル・チョクロ



【曲目解説】

★第一 部★

♪【リュートのための古風な舞曲とアリア オットリーノ・レスピーギ 作曲

オットリーノ・レスピーギ（1879-1936）はイタリアの作曲家。初期はヴァイオリンやヴィオラ奏者として活動していますが、後期はローマで教育者・作曲家としても活動しました。交響詩ローマ三部作（噴水・松・祭）がよく知られています。「リュートのための古風な舞曲とアリア」は、彼がローマのサンタ・チェチーリア音楽院の教授をしている時、図書館で15～16世紀のリュート曲を発見し、それを管弦楽用に編曲して、それぞれ4楽章から成る三つの組曲を完成させました。本日は中でも特に有名な「第三組曲」を演奏します。

第1楽章（イタリアーナ） 16世紀末の作曲者不明の作品が原曲です。
どこかで聞いたことのあるような明るく流麗な旋律です。

第2楽章（宮廷のアリア） 16世紀フランスのリュート奏者ベサールの曲集から何曲かを組み合わせています。曲想・テンポも変化に富み、興味深い楽章です。最初と最後に歌われるアリアが美しく印象的です。

第3楽章（シチリアーナ） 作曲者不明。優雅な主題で始まるこの変奏曲は、単独で演奏されることや、CMに使用されたこともあり、耳にされたことがあるのではないのでしょうか。シチリアーナとは、シチリア島起源の舞曲です。

第4楽章（パッサカリア） 曲集は17世紀の作曲家ロドヴィゴ・ロンカッリです。パッサカリアは17世紀ヨーロッパで流行した舞踏曲。荘厳なテーマを、各パートが掛け合い響きあい、美しく終わる重厚な楽章です

★第二 部★

♪【ワルツ・ピカピカ】 作曲者不詳

南米ヴェネズエラの伝承曲ですが、「君の影になりたい」という別名もあります。「ピカピカ」が何故「君の影になりたい」なのか詳細は不明です。ワルツといいながら終盤は3分の2拍子と8分の6拍子が重なって、なかなか過激的です。

♪【ボクサー】 ポール・サイモン 1969年作曲

タイトルは「ボクサー」ですが、歌詞の内容は、家出しニューヨークで貧しい暮らしをしている若い肉体労働者のストーリーです。アルバム「明日に架ける橋」に収録され、ヒットしました。

♪【イパネマの娘】 ヴィニシウス・モライス 作詞

アントニオ・ジョビン 1962年作曲

イパネマはブラジル、リオデジャネイロ近郊の海岸の名前で、ボサノバの代表曲です。

♪【浜千鳥】 鹿島鳴秋 作詞 弘田龍太郎 1920年作曲

大正8年詩人鹿島鳴秋が新潟県柏崎を訪れ、裏浜海岸から番神海岸まで散策した時作詞し、翌年大正9年弘田龍太郎が曲をつけ、全国的に広まりました。

♪【テイク・ファイブ】 ポール・デズモンド 1959年作曲

4分の5拍子のリズムが実に特徴的です。アメリカ西海岸ロサンジェルスを中心に白人メンバーを主として活動したウエスト・コースト・ジャズの代表曲です。

♪【ホテル・カリフォルニア】 イーグルス 1976年作曲

イントロの印象的な旋律、13本のギターを組み合わせたギターならではのアルペジオ、極めて印象的なロックソロなどロック史上の金字塔。発売と同時に1500万枚を売り上げ、イーグルスの名を不動のものにしました。

♪【4台のチェンバロのための協奏曲】 ヨハン・セバスチャン・バッハ作曲

バッハのチェンバロ協奏曲の大半は、自己の旧作や他の作曲家の作品から編曲したもので、この曲もヴィヴァルディのヴァイオリン協奏曲集『調和の靈感』作品3の10番が原曲です。

第1楽章 Allegro (アレグロ) リトルネッロ形式で、きびきびとした主題とソロが交互に出てきます。

第2楽章 Largo (ラルゴ) 3つの部分から構成されていますが今回は最初の部分だけ演奏します。

第3楽章 Allegro (アレグロ) 主題の合間を縫うようにしてソロがリレーしながら縦横無尽に演奏します。

★第 三 部★

♪【シボネー】 エルネスト・レクオーナ 1929年作曲

絶滅したインディオの種族シボネーを偲んで書いた歌曲。「シボネー（の娘よ）、僕は君の愛が得られれば死んでもいい」。「シーボネー」と呼びかけるように歌うフレーズが何度も出てきます。笠慎一郎氏による編曲です。

♪【ロミオとジュリエット】 ニーノ・ロータ 作曲

1968年公開の映画「ロミオとジュリエット」の主題歌。映画では吟遊詩人が切々と歌い上げています。若い男女が迎える悲しい結末、ギターでうまく表現できるでしょうか。

♪【宇宙戦艦ヤマト】 阿久悠 作詞 宮川泰 作曲

松本零士原作のアニメ「宇宙戦艦ヤマト」のオープニングテーマ曲です。「銀河をはなれイスカンダルへ・・・」少年心をわくわくさせてくれる歌詞です。

♪【帰らざる夜明け】 フィリップ・サルド 作曲

1971年アラン・ドロン主演の映画「帰らざる夜明け」のテーマ曲です。のどかな田舎町で農作業する主人公、実は前歴のある犯罪者でした。郷愁を誘うメロディーは孤独な男の心情をあらわしているようです。アルペジオに乗って同じメロディーが繰り返されます。

♪【トランペット吹きの休日】 ルロイ・アンダーソン 作曲

「休日」とは言いますが、のんびりしたフレーズは一切ありません。あまりにも忙しくて合奏団の団員が根を上げたとか上げなかったとか。

♪【エル・チョコロ】 アルヘン・ビジョルド 作曲

アルゼンチンタンゴの名曲です。「エル・チョコロ」はトウモロコシの意味らしいのですが、果たしてどのあたりがトウモロコシなのか。世界中のタンゴ楽団が独自の解釈で演奏しているとのこと。